

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	4月	10日	(記入者) 横山真紀子	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天川村：八坂神社の木造牛頭天王坐像、木造牛頭天王像				

〈天川村HP写真転載許可済み〉

所在地	吉野郡天川村南日裏164				
所有者(取材対応者)名	八坂神社(取材対応者 ***区長、奈良まほろぼソムリエ の会会員***氏ほか南日裏地区 の方々)			連絡先 0747・63・0321(天川村教育委員会)	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：天川村教育委員会				
市町村指定文化財	彫刻	2 軀	①木造牛頭天王坐像 2004(平成16)年4月30日指定 ②木造牛頭天王像 同上		
	建造物	棟			
文化財指定理由	①平安後期の数少ない牛頭天王像の作例として貴重。 ②牛にまたがる姿に表される図像的にも珍しい平安後期の遺例。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	拝殿内外には消火器が備え付けられており、神社入り口付近にも消防水栓がある。	特になし。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	付近にはイノシシ、シカ、サルなどが出没するが、被害はない。	特になし。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	2軀の像はいずれも本殿の閉ざされた扉の中の祠に安置されている。祭りのときのみ開扉され、防虫剤を入れ替えるそうで、状態を確認することはできなかった。お話によると、13年前に水害があり、拝殿付近まで水がきた。12年前には元々計画していた拝殿の建て替えのため、2軀の神像を天河大辨財天社に預かってもらったが、損傷が激しく移動させることに細心の注意を払ったとのこと。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

直接2軀の像を見ることはできなかったが、お話を伺う限り、虫食いが進み、かなり傷みが激しい状態と思われる。一刻も早い修復が望まれるが、費用面から難しい状況。神社そのものは拝殿も境内も地元の方々により、きれいに維持管理されている。

市町村指定文化財取材票〈裏〉

取材日	2024年	4月	10日	(記入者) 横山真紀子	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天川村：八坂神社の木造牛頭天王坐像、木造牛頭天王像				

〈天川村HP写真転載許可済み〉

文化財指定名 木造牛頭天王坐像、木造牛頭天王像

文化財（木造牛頭天王坐像）	文化財（木造牛頭天王像）
 <p>天川村HPより</p>	 <p>天川村HPより</p>
八坂神社 拝殿	像が安置されている本殿
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入
<p>いずれも平安時代後期作とみられるヒノキの一木造りの像。牛頭天王はインド祇園精舎の守護神で日本では素戔鳴尊と同一視され、京都の八坂神社のご祭神としても知られている。坐像は像高18cmで、頭上に牛頭を冠した三面六臂の姿に表され、天王像は総高37cmで、三面六臂六脚で牛にまたがる。牛頭天王像は全国的にも作例が珍しい。</p>	<p>八坂神社は江戸時代には牛頭天王社として天河大辨財天社の末社であったことが確認されている。周辺には牛頭谷などの牛頭を冠した地名も残る。7月は天川村内の神社の祭礼が順に催され、八坂神社は第2土曜日にお祭りが行われる。神社の脇を流れる天ノ川のムシロ磐で八坂神社の牛頭天王と、天河大辨財天社の弁天様が七夕の夜に逢瀬をするという伝承が残る。</p>